

第2回 新しい村魅力アッププラン検討委員会 議事録

日時：令和4年9月16日（金）14時～16時15分

場所：新しい村 村の集会所

出席者：

委員（敬称略）：

1	委員長	平林 信隆	
2	副委員長	折原 正英	
3	委員	島村 忠雄	欠席
4	委員	並木 幸夫	
5	委員	武笠 正明	
6	委員	蛭田 秀人	
7	委員	大澤 亨	欠席
8	委員	茂木 俊二	
9	委員	八木橋 孝雄	
10	委員	中嶋 庸子	
11	委員	酒井 重信	
12	委員	千葉 美香	
13	委員	村田 昭仁	
14	委員	吉澤 弘子	

事務局：

宮代町産業観光課	小川課長、榎本副課長、鈴木主幹、立見主任
パシフィックコンサルタンツ（株）	新田、酒本、橋爪、佐々木

1. 開会

事務局：ただいまから、「第2回新しい村魅力アッププラン検討委員会」を開会する。

2. 前回の振り返り

事務局：前回の検討委員会でいただいた意見を項目ごとに分類し、それぞれに対して対応（案）を整理した。

（資料1説明 略）

ただいまの説明の内容についてご質問はあるか。

委員：SDGsへの対応について、「17つあるゴールとの対応関係を示す」とあるが、17番目のゴールとの対応関係を整理するということか、17つあるゴールそれぞれへの対応関係を示すということか。

事務局：魅力アッププランの各取り組みが、SDGsの17つのゴールのどの項目に対応するかを整理した上で、計画をとりまとめる方針である。

委 員 : 承知した。個人的には、15 番目の「陸の豊かさを守ろう」が重要だと考えているため、よろしくお願いします。

3. 議題

・前回からの修正点について

委 員 長 : 以降の議事については、私の方で進行を行う。ご協力をよろしくお願いします。
まず、事務局より、資料 2 の説明をお願いします。

事 務 局 : 資料 2 は第 1 回検討委員会の内容を踏まえ、修正したものである。修正点を中心に説明させていただきます。

(資料 2.1~6 頁説明 略)

委 員 長 : 変更点に関して、ご質問・ご意見ございましたら頂戴したい。

委 員 : 宿泊機能について、第 1 回検討委員会では否定的な意見が多く、肯定的な意見が伺えていない。また、今回の検討委員会で詳しい話をするということであったため、現時点で再度議論してはどうか。

委 員 : 宿泊機能はアンケート調査結果から盛り込まれた内容かと思うが、アンケート調査における町内外の比率や年齢構成が分かれば教えていただきたい。

委 員 長 : 宿泊機能については、抽象的な形で進行していた。「滞在型」というキーワードに関して委員に合意が取れていれば、次回の事業手法の部分で宿泊機能として、具体的な手法や実施主体を議論していく方針である。本日決定した内容で事業手法まで影響はしないことを確認いただきたい。

事 務 局 : アンケート結果については、お時間いただければ、具体的な数字を示せると思う。昨年実施した施設利用者アンケートでは、40 代が最も回答が多かった。34.3%の方から「宿泊」について意見をいただいた。本日の資料 2 の 9 頁〜で、宿泊施設について説明しているため、以降の説明で議論していただきたい。

委 員 長 : 回答としてはよろしいでしょうか。

委 員 : みなさんの意見を伺いたい。

事 務 局 : アンケートは来場者と WEB で実施したが、来場者に関しては、30 代が約 31%、40 代 35.1% が最も多く、70 代 15%であった。また、居住地に関しては町内が 27.8%で、埼玉県内が約 60%、県外が約 10%という属性であった。

委 員 長 : 宿泊機能を求めているのは、町外の方ということになるか。

事 務 局 : 先ほど示したデータはアンケートに回答者の属性であり、「宿泊機能」について回答した割合ではないことを留意いただきたい。

委 員 長 : 宿泊機能に関しては、「検討」という形で納得いただき、以降の方で議論いただければと思うがよろしいか。

委 員 : 全体的な意見が抽出されたうえで、話が進むのであれば良いが、宿泊施設ありきで話が進んでしまっただけではどうにもならないのではないか。

委 員 長 : 宿泊施設について意見が出し切れていないことを懸念されているということか。

委 員 : そうである。

委 員 長 : 機能の部分で具体的に議論していただきたい。

・導入機能の考え方について

①「本気で取り組む」を実現する機能について

委員長：機能の強化・導入の考え方について事務局より説明をお願いします。

事務局：宿泊については、「気軽に楽しむ」の部分で議論いただきたい。

（資料 2.7～10 頁説明 略）

委員長：説明部分に関して、ご質問・ご意見があればお願いします。

委員：非常にわかりやすかったが、そもそも 2040 年の東武スカイツリーライン沿線どの市町村も消滅可能性都市と言われており、宮代町自体が消滅する可能性がある。新しい村のみをターゲットとしても、宮代町がなくなってしまうたら意味がないため、宮代町としての大きな視点で考えるべきである。宮代町としての取組方針を考えた上で、新しい村の魅力アッププランを考えるべきではないかと思う。個人的には、宮代町は「農のあるまちづくり」というコンセプトから、宮代町全体で取組み方針を考え、宮代町の魅力アップにつなげると良いかと考える。

千葉県のみすみ市、大阪府の泉大津市で子育て世帯を中心に新規移住者が増えている。2つの自治体は共通して「オーガニック給食」を実施し、環境循環型社会を実現している市と言える。今後、環境に配慮した生活、暮らし方が大切になってくると思うため、まずは、宮代町の学校でオーガニック給食を実施したいと考えている。その給食を新しい村でも楽しめるようになると良いかと思う。新規移住者を獲得している自治体の 1 つの取組として、オーガニック給食があったので、参考になるのではないかと。

委員長：宮代町全体としての魅力アップを図ったうえで、新しい村の魅力アップが図れるとよいのではという意見であった。

事務局：第 5 次総合計画で町全体としての考えが示されており、その計画に基づき新しい村のリニューアルが位置づけられている。町内での地域循環を図るといったことも目指した施設であった。そうした意味で、考え方は同じ方針かと思う。大本には、町の総合計画、「農のあるまちづくり基本計画」を背景として計画づくりを進めている。町の既存計画を超えた内容としていくのは難しい。

委員長：第 5 次総合計画の中で齟齬なく今回の新しい村魅力アッププランが作られたという認識である。

委員：承知した。

②「気軽に楽しむ」を実現する機能について

委員長：「気軽に楽しむ」の部分の機能の強化・導入の考え方について事務局より説明をお願いします。

事務局：（資料 2.7～10 頁説明 略）

委員長：説明部分に関して、ご質問・ご意見があればお願いします。

また、ハーブ園や PR についてアイデアがあればお願いしたい。

副委員長：滞在・宿泊機能について、町の方針と書かれていることが気になる。

事務局：着地型観光については、産業観光課が観光の計画を検討した経緯がある。宮代つながりづくりイベント「和 e 輪 e（わいわい）」という、商業・観光事業者が体験型プログラムをつくり、観光につなげていく活動を行っている。町が直接行わず、有志の方により活動が進んでいる。その当時、町として着地型観光を目指していく方針を整理したことがあり、そのきっかけとした体験プログラムの充実等を

見据えて整理した。表現として分かりにくい部分もあるので、調整していく。

委員長：町民の方の家を提供する等も考えられる。滞在機能は宿泊と同意ではないと思う。

委員：新しい村でキャンプを実施したことがある。ボーイスカウトの指導員をおこなっており、当時の社長と懇意にしていたことから、月1回程度行った。条件として9時オープンまでに撤収するということで、鍵を借りトイレを使わせてもらっていた。結論として、キャンプはやめさせてもらった。駐車場不足や子供たちの片付けの中での一般の利用者との問題があった。苦情を子供たちにいう人も出てきた。資料のキャンプサイトは、全体面積に対してかなり小さい。キャンプやりたい意見が3割程度とあったが、キャンプしたことのある人はすぐに良い環境があるとキャンプを行いたくなる傾向にある。キャンプはできると思うが、サイトの面積や人件費を考えると収益がでない。また、他の利用客との関係性を考えると難しいのでは。

現状の芝生広場で行うのであれば、BBQくらいが精一杯になるのではと考える。現在はBBQで5組まで、キャンプするとなると3組くらいが限界であり、プランに実証実験まで組み込むのは早いのではないか。

騒音の問題もある。一般的に、キャンプ場を新しく開設する際、住宅が近い場所には作らない。町内会等での合意が必要となり、夜間に少し騒ぐとなると苦情のリスクがある。

営業目的でなくても難しいのに、宿泊はともかくキャンプやグランピングを芝生広場で行うのは厳しいのではないか。日帰りのBBQが精いっぱいと思う。

委員長：実際の経験から、具体的な課題があるというのは、非常に貴重である。キャンプという表現を入れることは難しいのではといった意見があるかと思うがいかがか。

事務局：意見を踏まえて、再度考えたい。貴重なご意見をいただきありがたい。

委員：キャンプをもし行うのであれば、離れた場所にサイトを設定し、レイアウトを調整したほうがよい。

委員長：今の課題を検討していくこととする。

委員：収益の話があった。確認であるが現段階では、財務内容、新しい村にとって利益面も考慮して検討するのか。意見を言う時にそこまで考えるべきか。

プランができた上で、採算が取れないため実施しないとなると意味がないため、確認したい。

委員長：事業採算性を考えた上で意見交換するべきか。どの程度を条件として捉えるべきか。

事務局：宿泊機能について、やればやるほど赤字になるというものにはできない。何を目的とするか、新しい村として行うべきかが重要である。

1晩テントを張って宿泊するという考え方だけではなく、窓口機能のみを担うといった意見もあった。あまり議論の幅を狭めたくはないが、最終的に計画に乗せていく際には採算性が合わない、計画に乗せたら絶対行うといったことは避けたい。アイデアとして宿泊機能を現実的に想定されるものがあれば素案として示しつつ、難しいということであれば示さないことになる。

委員長：実験的に行うことや、PRとして行うことなどいろいろなレベル感があるかと思うので、そうした内容をまとめて示していくことになる。

事務局：PRとして単発的に行うこともある一方で、恒常的に置くのであれば採算性を考えることはある。

委員：キャンプサイトと記載すると、収益を出す必要があると感じてしまうが、採算性を考えないプログラムとして単発的に星空を楽しみ一泊するということであれば十分可能性はある。事業採算性を求めたサイトとして考えると再整理すべきという意見。

委員長：プロモーションとして良い考えがあればお願いします。

東武動物公園のとの連携も重要であると思うため、アイデアがあればお願いしたい。

委員：東ゲートのロータリーに新しい村の案内がある。知っている人は分かるかと思うが、初めて訪問する方には、体験できる内容や施設の概要が分からないので、ゲート付近に写真等でこういった体験ができるか示すなどあると良いかと思う。以前行った、野菜などを園内で販売するなど、そうしたことを継続的に行えると認知アップにつながるのではないかな。

委員：魅力アッププランをつくった結果、町が実施するのか、新しい村が実施するのか、プラン策定後の方向性を確認したい。新しい村は委託を受けていろいろな取組を行っていると思うが、誰が実施するのか。具体的になればなるほど、新しい村としては異なることになるのかと思うがどうなるか。指定管理の契約更新のタイミングでもあるので、確認したい。

委員：魅力アッププランの資料自体は、（株）新しい村が会社として確認、合意している訳ではない。利用者アンケートや実施したい内容は、月 1 回の経営会議に議題として出している。その中で一部のアイデアは重なっている部分がある。ずれもないことはないが、「お客様に来ていただきたい」という思いは共通の部分がある。来年は指定管理の更新のタイミングになる。宮代町と相談しながら、新しい村として行いたいものも提案の中に入れていきたいと考えている。

委員長：運営や宮代町と新しい村の関係性について事務局から回答をお願いします。

事務局：今回の提案は非常に多岐に渡るため、宮代町と新しい村で役割分担をしていく必要があると認識している。特に産業観光課は町の観光を担っているの、観光コンテンツや情報発信に関して担っている部分もあり連携していく必要があると考えている。

委員：町内の他の課との横連携もできると、多様なイベントができるのかと思う。他の課とも連携してよい方向にむかってもらえればと思う。

委員長：他の課との連携も検討いただく。

委員：ハーブ園について、手に負えず、収益にもならないといった話を前社長が言っていたことがある。メディカルハーブガーデンと名前を変えて、講習等を宮代町はやらないと思うが、新しい村で行うのではないかな。宮代町の人ができるのであれば行えばよい。市民の有志の方で実施してもらえたらいいと思う。

宮代町の野草を保全したいと思い活動しており、新しい村には 9 カ所野草が自生しているエリアがある。ハーブ園があるのであれば野草園をやしてほしい。

水と緑のネットワークで、イベントや月 2 回の草取り等を含め実施している。

「環境との共生」とあり、きれいな写真も載せられているが、イメージを追いすぎではないか。写真に載っている植物は特定外来種であり、新しい村内に生息している。一帯に絶滅危惧種があるため、守ってほしいと以前から伝えている。去年は農の家のそばの田んぼでミズキカングサの自生が確認され、県内では 100 年ぶりの発見となっている。野草が豊富な環境であり、環境と共生するというのであれば、そうした野草とも共生し、維持していくことが重要である。埼玉県では、絶滅したと言われていた野草が見つかり、いろんなところから人が集まった。そうした観点も追加してほしい。

委員長：自然と共生した環境づくりは方針として含まれているが、そうした考え方を導入機能や情報発信にも入れてほしいという意見かと思うがどうか。

事務局：ご意見踏まえて、検討させていただく。

委員長：ハーブ園に関して、アイディアも含めて協力していくということでよいか。

委員：メディカルハーブ園はもう既にリニューアルしている。既存のプログラム等を行っている。ハーブ園は管理が大変ではあるが、町内外のボランティアの方 13 人くらいに協力いただいている。儲からないという話もあったが、ハーブの苗を販売したりワークショップなどをしており集客には貢献しているかと思う。

委員：ハーブ園の植物の種がハーブ園外に出てきているのをみかけるので、在来種の野草と交わらないように配慮してほしい。

委員：午前中も講座を実施した。現在まで 2 回ワークショップを開催したが、世田谷、板橋など都心や杉戸など周辺から来てくれる人もいる。新しい村の野草を使った染め物をできないか考えている。

委員：トラストエリアで草木を使った染め物を行っている人もいた。宮代のものだけでは数が足りない。

委員：「新しい村の・宮代町の」ハーブや植物を使っていることをアピールしたワークショップを実施した方がよい。新しい村にご協力いただき、藍の葉を種から育成し、収穫し、染める一連の流れを体験してもらった。この体験は、都心ではできず、この場所だからこその活動だと思う。都心で活動している染物の先生は、郊外で藍の葉を切って都心で使っている。土を育てる段階から楽しめたことに対する満足感について、アンケートで書いてくださる参加者も多い。

認知度アップに関して、明日もワークショップを行い、10 名程参加いただく予定である。枠が余っていたため、新しい村に参加者募集を協力していただいたが、加えて、個人の SNS を活用して、写真の共有を行った。その際に、第 1 回検討委員会のキャッチコピーを踏まえて、ハッシュタグ（＃新しい村＃藍染＃ハーブ園等）を用いて投稿をした。その投稿に対して、商工会の方を含む近隣住民の方に結構反応やコメントをいただいた。SNS の活用は認知度アップの上で重要だと実感した。新しい村でも公式 HP や SNS で発信をしているようだが、アピールが不十分だと感じた。自分自身も SNS への発信を積極的に実施するので、資料のキャッチコピーを活用しつつ認知度アップに貢献できるのではないかと考える。

午前中にワークショップした後で、BBQ できたらと考えた。都会から参加する方も多いため、そうしたことも企画していきたい。農に触れる機会を広げる、訪れる目的とあるが、ハーブに関しても本気で取り組む段階まで持っていける要素であると感じている。

BBQ、キャンプの話もあったが、都内では豊洲等の駅前で BBQ している。場所を決めて行うことは、新しい村でもできるのではと感じた。

群馬県の沼田市に何度か訪問した。日本一の道の駅があり、都会から来た人を集める場所になっていると感じた。地産地消のものを使っているが、都会のカフェのような空間で、おしゃれな場所になっていた。自身も「食べたい」「行きたい」と感じる施設であった。ここでそれを求めているわけではないが、集客のターゲット層の参考になればと思う。

委員長：現場や消費者視点からの多くの意見ありがたく思う。これからの参考にさせていただく。

委員：森の市場 結の施設の更新について、中長期的な方策として、直売所の拡張とあるが、農業人口など減っている中でどうして拡張であるか疑問に思った。

委員長：なぜ拡張なのかという点について、事務局に回答いただきたい。

事務局：減少していく流れをふまえて、研修・教育等を行っていく方針を示しており、仕入れ品ではなく、施設内で栽培したものを直売所で出荷したいという思いで記載している。中長期的な目標として示して

いるため、必ず実施するということではなく、状況が変わっていく中で検討をしていきたいと考えている。

委員長：10年～20年の計画ということを確認した。

委員：直売所の仕入れ品が多いという話について、以前から話はしているが、改善されていないと思う。消費者の視点からみると、直売所へは地場産を求めてくるため、仕入れ品には価値を感じない。地場産を充実させていくことを働きかけてきたが、仕入れ品と地域の生産者の出品品目が被り影響を受けている。改善をしてもらいたい。

商品を見ると、仕入れ品と地場産品は違いが示されているが、混在している部分もあり、誤って購入し、だまされた気持ちになる。レイアウトも含めて、地元の農産物が優先されるように調整をしていただきたい。

委員長：大変重要な話であり、私自身も同感である。これに関しては、取り入れる方針で良いか。

事務局：はい。

③ ゾーニングについて

委員長：ゾーニングについて事務局より説明をお願いします。

事務局：現況図はご存じのものかと思う。20年後のイメージは、現施設が老朽化していることが想定される前提になる。利用のゾーンを3つに分けていけると良いかと考えている。今回のご意見踏まえて、少しずつ修正していきたいと考えている。

（資料2.11～12頁説明 略）

委員長：これから修正してくとのことだったが、将来のイメージに関して、ご意見はあるか。

委員：ワークショップが実施され、その際には交差点の部分には駐車場を置かない方が良いという意見が多く出ていたが、今回の図では駐車場となっている。ここには駐車場を置かないほうがよいと感じた。直売所に行く通りは稲穂や水の張った水田の風景が見える方が良い。南の駐車場を広げたほうが良いのではないか。駐車場の入り口の2方向となり、人との動線が混在するのでこうした配置はさけたほうがよい。また、果樹園の部分にも絶滅危惧種の野草が存在する。絶滅危惧種の場所をプロットした航空写真を渡しているため、配慮いただきたい。

4. 今後の検討スケジュールについて

委員長：今後の検討スケジュールについて事務局より説明をお願いします。

事務局：（資料3説明 略）

本日貴重な意見をいただいたため、ご意見を踏まえて、次の会議の際に、素案として全体を網羅した計画をお示しする。事業手法やPR手法、実際のスケジュールについても計画の中で整理する。そのため少しお時間いただき、12月頃の開催を想定している。近くなったらご連絡を改めて差し上げる。

委員長：今後の検討スケジュールについてご意見・ご質問はあるか。

5. その他

委員長：全体を通してご意見・ご質問はあるか。

委 員 : 会議の冒頭に前回の振り返りを行ったが、資料を事前に見てもらえているかと思うので、簡略化していただき、議論を中心とするようにしてはどうか。

事 務 局 : 資料については、事前を送付しており、目を通して思うため、必要な部分のみ抽出して報告するようにする。

委 員 長 : 以上を以て本日の議題はすべて終了した。事務局に進行を交代する。

6. 閉会

事 務 局 : 委員長、議事進行いただきありがたく思う。

本日は、長時間にわたって活発な意見交換いただきありがたく思う。委員の方々の経験や消費者目線での貴重なご意見をいただいた。すべてが魅力アッププラン策定につながるご意見であった。ありがたく思う。次回は 12 月を予定している。近くなったら日程調整を行う。よろしくお願いします。以上で「第 2 回新しい村魅力アッププラン検討委員会」を閉会する。